

# 真鶴 自治会だより

ふれあい・思いやり・たすけあい

平成18年12月15日  
第52号

《編集・発行》  
真鶴町自治会連合会

《発行代表者》  
錦 織 潔

《編集責任者》  
飯 塚 潔

## 自治会役員の見学研修報告

今回の視察の目的は①行政と自治組織との連携によるまちづくり②自治会の下部組織の運営について、を主題に役員個人個人がそれぞれに課題を持って学ぶこととした。

掛川市は生涯学習の先進都市として知られている。わが真鶴町も生涯学習推進町の指定を受け、すでに10数年を経過した。共通に取り組んで来たと思える生涯学習の推進成果は、掛川市とわが町では大分隔りがあるように感じた。

一、市民と行政が別表のようなシステムで問題点をしっかりと共有し、相互理解の上で行政が進められて

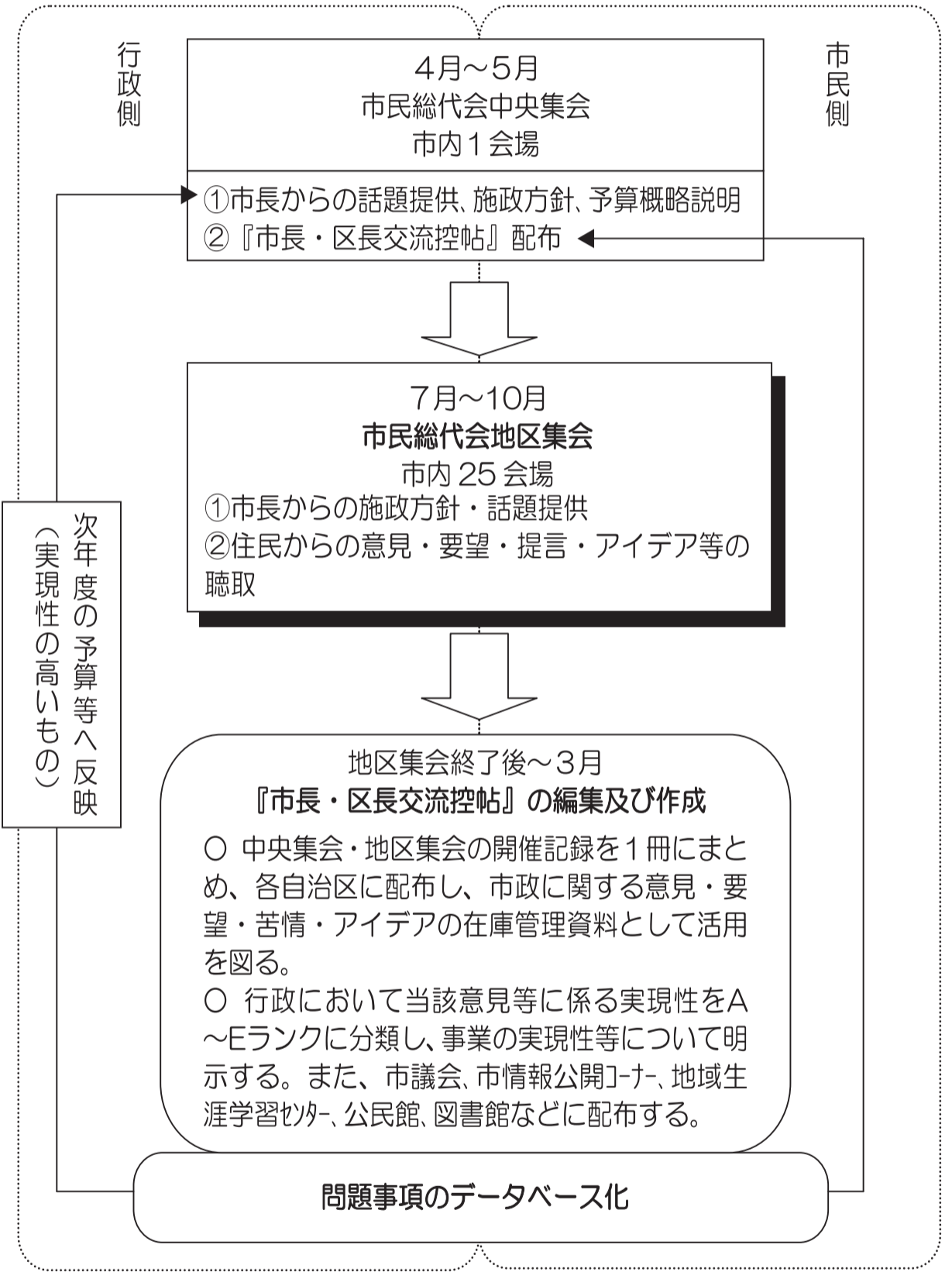
きた。市議会議員は、小さなことにとらわれず、大局に即し行動してきたとの事。

二、自治会への加入率は掛川市の九二%に対し真鶴は五八%である。高齢化の足取りはわが町が先行していることは事実で、それが理由のようにしているが、あまりにも開きすぎている。日赤や赤い羽根など社会福祉関係の募金のやり方はわが町と同様だ。この差は自治会役員の「やる気」の差か。

三、掛川市の区長会長は、為政者として職員、区の役員、更に一般住民が其の立場・立場で生涯学習と「やる気」が今の掛川市を作り上げてきたと、胸を張ってこたえた。

四、生涯学習とまちづくりへの取り

### 掛川市における「市長・区長交流控帖」の位置づけ



### 組み

生涯学習は、課題を掲げ努力する(達成するための知識や技術の学習)―成果の発表(誘い・集い・交流する)―結果反省―更なる前進的な課題・目標の掲示・・・此のサイクルの実施で自身の向上のみでなく、地域づくり町おこしに反映されるものである・・・其の根底にはボランティア精神が脈々と流れていなければならぬ。

掛川市の別掲の制度は中学校公民の教科書に「民主主義の好教材」として取り上げられている。要は計画・実行・検証の繰り返しで住民の気概を高めてきたものと思う。われわれに付き合ってくれた区長さんはここまで二五年余の歳月を費やしてきた。これは初代市長が真剣に生涯学習はかくあるべきであると市民に浸透させてきた結果であると誇らしげに答えていた。わが町の生涯学習のあり方については、其の精神を考え直して推進法を立て直すべきだ。自治会役員は、「好意と友情」をもって「みんなのためになるかどうか」を合言葉に、住民の意向を基に、行政に協力し、或いは進言し、住民が「住みよい町」と誇れる活性化したまちづくりに邁進しなければならぬと痛感した。細かなことは今後の自治会活動を通じ、生かしてゆきたい。

帰途のバスの中で参加した役員が一人ひとり、研修結果について感想を述べ合ってきたが、このことについて別項に掲載したのでお読みねがいたい。そして自治会を支援し激励していただき、ご協力を節にお願いし報告いたします。

連合会長 錦織 潔

裏面へ



## 視察研修に思いこむ

掛川市は、お茶と城下町、又多くの歴史と文化が育まれた良い所でした。

掛川市の人口は、約12万人。人口約9千人の真鶴町の10倍以上、面積もずいぶん違いますが、なによりも市民の意見・要望・苦情・アイデアの声を行政が収集してくれることが大きな違いと感じました。

それは、地域の代表者が市長や幹部職員とまちづくりのため話し合う「市民総代会地区集會」が毎年開かれている。それも20年以上も続いているとのことである。

話し合いの中で行政がすぐできることはA、できないことはEとし、AからEまでのランク付けがされるとのことである。意見も記録に取って残すことにより、後代、地域役員の事務引継ぎ書として活用できると市職員が説明してくれました。

視察は、私自身も勉強になり、又自治会活動にも役立つと思いい、次の視察研修に期待します。

西自治会 橋本昭弘

## 視察研修をおえて

真鶴町自治会連合会は4年前御前崎町、浜岡町の視察研修を最後に視察研修を中止していたが、今回掛川市の自治制度を主体に視察研修することになり自治会連合会役員17名中17名が参加して町のマイクロボスを利用し日帰りで視察をした。

ガラス張り市政を象徴するように市庁舎もガラス張り、市民との応対も一目で分る設計構造に先ずは一驚し、5階の議員全員協議会室で市政の

現状と区政（真鶴の自治会連合会相当）の関わりについて説明を受けた。

市民・区政・市政が三位一体で情報交換を行うという姿勢は、わが町の自治会連合会と単位自治会が連携して行政に協力していると思うが、なかなか腹のうちが見えてこない。また当町の町議会便りも経費節減のためとかで、いつの間にか消滅してしまっただけ、一つの議会報告が閉ざされ残念である。自治会連合会は町政と連携を密にしつつ自治組織を活性化し、街づくりに参加して地域振興へ貢献してゆきたいと思う。

一七年かけて自治組織にやる気を起させるバックアップ制度を作り上げてきた掛川市の為政者の姿勢と相互信頼による努力が強調され、掛川市の区制度と真鶴の自治会制度の差をいろいろと学ぶことが出来たことを掛川市に感謝します。最後に子供の学校を知らせる放送が市内に流れていることを耳にした。

城口自治会 青木美喜男



## 『掛川市の防犯活動』

掛川市のホームページを拝見して、地域の防犯活動に関する取組みについて、質問させてもらいました。

防犯活動の基本的な考え方は、地域の安全・安心を、住民自ら取り組むことを主体としているが、具体的な活動としては、①各隣組単位で行われ、組長さんが「防犯腕章」をつけて組内の家庭を回る。②犬の散歩で出歩く時に「わんわんパトロール」のリードをつけて回る。などの身近な活動をしているということでした。

私たち城北自治会の活動も、安全な活動が第一条件で、決して危険を冒す様なことの無い様にお願ひしている。また、義務感無く長続きする活動を目指す。という点も共通している。

わんわんパトロールについて言えば、隣の湯河原町は既に取り組んでおり、我が真鶴町にも取り入れて欲しいところでは。

城北自治会 岩本克美

## 掛川市自治会の視察を終えて

掛川は数十年前に市民の一般寄付により新幹線の新駅を作ったことで話題になり、当初の計画を大幅に上回る経済効果があったことで知られている。行政主体でなく、一般市民の後押しで新駅ができた意義は大きいと感じた。また、自分たちの手で作った新駅だからこそ愛着もあり、利用率の向上に役立っているのだとも感じた。このように新駅を作るといふ大事業に、一般市民も参加するといふことを過去に成し遂げた掛川であるから自治会活動や運営もさぞ立派であろうとの期待を胸に当日を迎えた。

ガラス張りの市庁舎の5階の会議室で2時間余り区長連合会長や市の職員（企画調整部地域振興課）から自治組織や住民主体の都市経営システムにおける行財政年間プログラムと市民総代会（自治区をはじめ市内主要団体の役員などが一同に参集し、市政に関するビジョンや当該年度の主要施策、事業及び予算などについて、市民と行政が情報を共有する。また、質疑応答・意見交換を通じて、全市政施策課題について意見・要望・アイデアなどを募り、市政に関する公聴の機会とする）の位置付けなどについて説明を受けた。

一番関心したことは、一般の民間企業が行っている「計画」「実行」「回顧」「計画修正」という経営システム（サイクル）を市政に取り入れている所にある。具体的には、年度当初の「市民総代会」において市長より施政方針、当該年度の予算概要の説明や話題提供があり、夏から秋にかけて市内25会場で住民からの意見・要望・アイデアなどを聴取する地区集會が開催される。そして地区集會終了後翌3月までに市民の意見・要望などの質問及び回答の記録集「市長・区長交流控帖」

特に地区集會において住民の要望事項などに対して回答を行っているが、要望事項の実現性などを5段階（例えばA：すぐやります B：翌年度予算で実施します C：次の実施計画に載せます D：今後十分調査・検討します E：できません）を行っていき、その作成し継続性を持たせている点にある。意見・要望・提言などについて、「言いつばなし」「聞きっぱなし」にしない点及び、次年度へ繋げていく点が優れていると感動した。何と言っても住民がいますまちづくり・いい人間関係・いい未来づくりな

どに真剣に取り組んでいる 姿勢に感動した。私達も掛川市をいい手本として、独自の自治組織・運営などを目標として研鑽を積んでいきたいと思う。

岩中央自治会 朝倉 隆

## やる気

広辞苑には：物事を積極的に進めようとする目的意識：と書いてある。

掛川市視察研修で対応に出た先方の役員はその「やる気」を度々口にしていて、真鶴町の自治会の役員には金銭的な報酬は一切無い。総てが自分たちの大切な時間を割いての奉仕活動である。その人達のやる気を引き出すものはなんだろうか。行政からの指示や要請ではない。皆でたてた計画に対し、住民がそれを理解し協力してくれることがこの「やる気」を持続させる大きな後ろ盾になる。

連合会長 錦織 潔

## 編集後記

参加した方の感想を聞いて感じたことは、掛川市では真鶴町では行われていない学校の下校時間に市民への学童児童の安全下校協力の呼びかけで放送するなど市民と密着した行政を目指しているようであり、防犯活動のしかたも犬の散歩時間を児童の登下校に合わせてもらうよう協力が自然にできるようお膳立て（防犯パトロール中とか犬の飼い主にすすんで参加していただく方策をとっているようであり、犬の糞の問題も意識改革ができ解消されている様である。高齢化のすすむ真鶴町でも良いところは、真似して欲しいものである。

広報委員 飯塚 潔